

(品目別需給編)

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2021/22 年度

生産量 前年度比  前月比 

・カナダ等で下方修正も、豪州、中国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

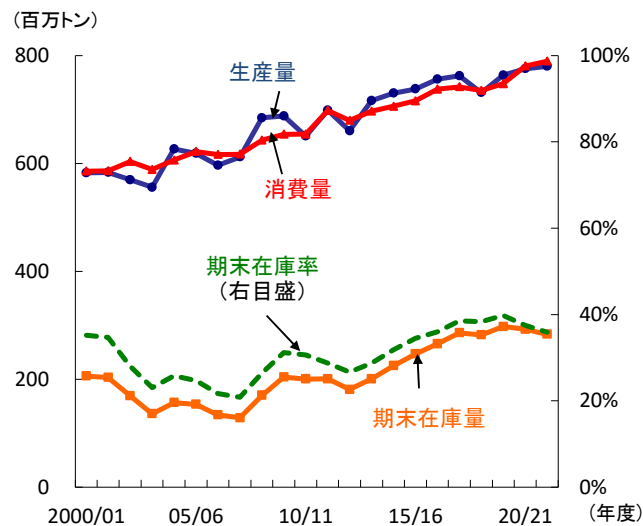
消費量 前年度比  前月比 

・中国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比  前月比 

・カナダ等で下方修正も、豪州等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比  前月比 



資料:USDA「PS&D」(2021. 9. 10) をもとに農林水産省で作成

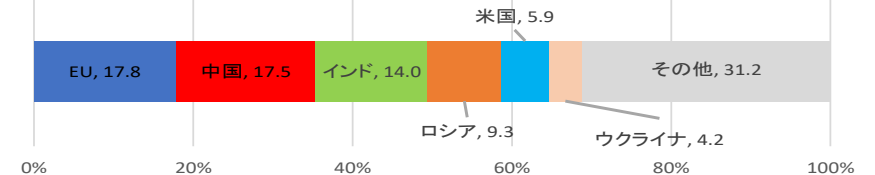
◎世界の小麦需給

(単位: 百万トン)

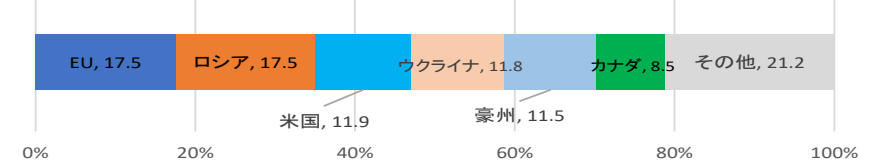
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	763.6	775.8	780.3	3.4	0.6
消 費 量	748.0	780.9	789.6	3.0	1.1
うち飼料用	139.0	157.6	159.2	1.8	1.0
輸 出 量	194.3	199.6	199.7	1.5	0.1
輸 入 量	187.4	194.5	197.1	0.6	1.3
期末在庫量	297.6	292.6	283.2	4.2	▲ 3.2
期末在庫率	39.8%	37.5%	35.9%	0.4	▲ 1.6

資料:USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (10 September 2021)

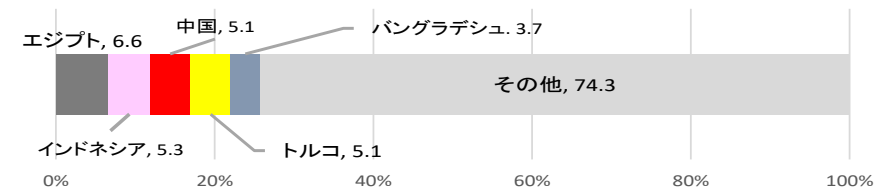
○ 2021/22年度の世界の小麦の生産量(780.3百万トン) (単位: %)



○ 2021/22年度の世界の小麦の輸出量(199.7百万トン)



○ 2021/22年度の世界の小麦の輸入量(197.1百万トン)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 > 2021/22 年度の収穫はほぼ終了、2022/23 年度の作付けが開始。

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度に比べ 7.1 %減の 46.2 百万トン。

同「Crop Production」(2021.9.10)によれば、前年度に比べ単収が上昇し、収穫面積が増加することから、冬小麦の生産量予測は前年度(31.9 百万トン)を 13%上回る 35.9 百万トン。また、前年度に比べ単収が低下し、収穫面積も減少することから、春小麦、デュラム小麦の生産量予測は、それぞれ、前年度(1.9 百万トン)を 50%下回る 0.9 百万トン、前年度(15.9 百万トン)を 41%下回る 9.3 百万トンとなる見込み。

同「Crop Progress」(2021.9.6～9.20)によれば、冬小麦の収穫は、8月上旬でほぼ終了し、春小麦の収穫は、8月5日時点で、収穫進捗率(主要生産6州)が90%に達し終盤となり、9月上旬にはほぼ終了した。一方、9月上旬には、2022/23年度の冬小麦の播種が開始され、9月19日時点の播種進捗率は、21%と前年度(19%)、5年平均(18%)を上回っている。また、同日時点の発芽進捗率は、3%(前年度3%、5年平均2%)。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の消費量は、前月予測に比べ、食用等が 0.1 百万トン上方修正され 32.3 百万トン。ハード・レッド・ウインター(HRW)が増加する一方で、新型コロナ感染拡大時にパスタ用として需要が高まったデュラム小麦は、低調な輸入ペースと高価格から減少し、例年の需要水準に戻る見込み。

同年度の輸入量は、前月予測に比べ 0.3 百万トン下方修正され 3.7 百万トンの見込み。品種別には、ハード・レッド・スプリング(HRS)とデュラム小麦が前月に比べ減少した。HRS 及びデュラム小麦は、主産地である大平原北部地域の干ばつにより生産量が減少し価格が上昇したものの、主要輸入先国であるカナダでも干ばつにより生産量が減少したことから、6月及び7月の同国からの輸入が限定された。

同年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、23.8 百万トン。8月の輸出先国は、メキシコ(15.8%)、フィリピン(14.7%)、中国(12.8%)、日本(11.6%)の順。

小麦－米国(冬小麦が全体の7割、春小麦は3割)

(単位:百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	52.6	49.7	46.2	-	▲ 7.1
消費量	30.4	30.5	32.3	0.1	6.0
うち飼料用	2.6	2.7	4.4	-	64.2
輸 出 量	26.4	27.0	23.8	-	▲ 11.8
輸 入 量	2.8	2.7	3.7	▲ 0.3	38.5
期末在庫量	28.0	23.0	16.7	▲ 0.3	▲ 27.2
期末在庫率	49.3%	40.0%	29.8%	▲ 0.6	▲ 10.2

(参考)

収穫面積(百万ha)	15.13	14.87	15.42	-	3.7
単収(t/ha)	3.47	3.34	2.99	-	▲ 10.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(10 September 2021)

表 米国の種類別小麦の生産量、収穫面積、単収(2021/22年度、2020/21年度)

	生産量(百万トン)		前年度比 (%)	収穫面積(百万ha)		前年度比 (%)	単収(t/ha)		前年度比 (%)
	2021/22年度	2020/21年度		2020/21年度	2021/22年度		2021/22年度	2020/21年度	
冬小麦	35.9	31.9	12.6	10.30	9.32	10.5	3.49	3.42	1.9
デュラム小麦	0.9	1.9	-49.6	0.58	0.67	-13.1	1.61	2.78	-42.0
春小麦	9.3	15.9	-41.4	4.54	4.88	-7.0	2.06	3.27	-37.0
合 計	46.2	49.7	-7.1	15.4	14.9	3.7	2.99	3.34	-10.4

資料: USDA「Crop Production」(2021.9.10)をもとに農林水産省で作成

表 米国の小麦輸出先国別輸出货量(輸出検証高)

(万トン)

2021年8月			2021年1月～8月			2020年1月～12月		
国名	検証高	シェア(%)	国名	累積検証高	シェア(%)	国名	累積検証高	シェア(%)
メキシコ	32.2	15.8	メキシコ	269.1	15.7	フィリピン	329.8	13.0
フィリピン	30.1	14.7	フィリピン	214.5	12.5	メキシコ	287.3	11.3
中国	26.1	12.8	中国	199.3	11.6	日本	255.6	10.1
日本	23.6	11.6	日本	167.2	9.8	中国	210.3	8.3
韓国	11.5	5.6	韓国	138.5	8.1	韓国	140.2	5.5
その他	69.4	34.0	その他	725.2	42.3	その他	1,311.9	51.7
合計	204.2	100.0	合計	1713.8	100.0	合計	2,535.2	100.0

注1. 8月の輸出検証高は、8月12、19、26、9月2日の合計値

注2. 2021年累積輸出検証高は、2021年1月7日～9月2日の合計

注3. 2020年の累積輸出検証高は、2020年1月2日～12月31日の合計

資料: USDA Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals (2021年9月11日)より作成。

＜ カナダ ＞ 平原三州の干ばつ天候で生産量は減産見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、主要産地の平原三州で干ばつにより単収が低下することから、2021/22年度の生産量は、前月予測から1.0百万トン下方修正され、23.0百万トンと前年度に比べ34.6%減少し、2008/09年度以降最低となる見込み。

平原三州では、8月の降雨で春小麦の収穫が遅延した。この降雨は今年度の春小麦の品質の低下に繋がる可能性があるものの、来年度に向けて土壌水分量の補充となった。

カナダ統計局「Model-based Production of principal field crops, August 2021」(2021.9.14)によれば、2021/22年度は、とうもろこしに作付がシフトし小麦の収穫面積が減少し、加えて、降雨不足、高温天候による土壌水分の低下が単収に大きな影響を与えた。このため、単収は前年度に比べ32.6%減少の2.37トン/ヘクタール、収穫面積は同8.5%減少の9.19百万ヘクタール、生産量は同34.8%減少の21.7百万トンの見込み。

各州政府の報告によれば、アルバータ州では、9月10日時点の春小麦の収穫進捗率が54%(前年度14%)。品質は、地域によって異なるものの、春小麦、デュラム小麦とも平均を下回っている。なお、8月上旬からの降雨で土壌水分は改善した。サスカチュワン州では、生長に重要な段階での干ばつが単収を大きく減少させた。6日時点で単収は、前年度に比べ春小麦で45%、デュラム小麦で54%低下する見込み。また、9月上旬までの降雨により一部地域で収穫が遅れたものの、16日時点の収穫進捗率は、冬小麦は100%、春小麦は83%(前年度55%)、デュラム小麦は89%である。なお、土壌水分量は降雨があったが、不十分な状況である。マニトバ州では、14日時点で、春小麦の収穫進捗率は90%(前年度82%)である。また、8月上旬までの降雨で、土壌水分量は改善した。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、干ばつによる生産減から、前月に比べ0.5百万トン下方修正され、2012/13年度以降最低の17.0百万トン。

カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、2020/21年度の輸出量総計は、普通小麦が19.6百万トンで、中国(15.6%)、インドネシア(11.6%)、デュラム小麦は6.1百万トンで、イタリア(24.6%)、アルジェリア(19.6%)の順。

小麦－カナダ（春小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	32.7	35.2	23.0 (20.2)	▲ 1.0	▲ 34.6
消 費 量	9.3	9.1	8.0 (8.6)	-	▲ 12.3
うち飼料用	4.2	3.9	2.8 (4.5)	-	▲ 28.6
輸 出 量	24.6	26.4	17.0 (14.1)	▲ 0.5	▲ 35.7
輸 入 量	0.7	0.6	0.7 (0.2)	-	25.0
期末在庫量	5.5	5.7	4.4 (2.6)	1.4	▲ 22.8
期末在庫率	16.2%	16.1%	17.6% (11.4%)	5.8	1.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.66	10.02	9.20 (8.80)	-	▲ 8.2
単収(t/ha)	3.38	3.51	2.50 (2.29)	▲ 0.11	▲ 28.8

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 September 2021)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(20 August 2021)

表 カナダ産普通小麦及びデュラム小麦の輸出先国(輸出検証高、シェア)
2021年7月及び2020/21年度(2020年8月～2021年7月)の8月～7月

(普通小麦)

	2021年7月			2020年8月～2021年7月		
	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)
1	中国	20.5	17.6	中国	306.9	15.6
2	コロンビア	19.8	17.0	インドネシア	223.2	11.4
3	ペルー	14.0	12.1	ペルー	177.2	9.0
4	日本	13.2	11.3	日本	163.4	8.3
5	インドネシア	9.4	8.0	コロンビア	159.1	8.1
6	その他	39.6	34.0	その他	933.1	47.5
計		116.4	100.0	計	1962.9	100.0

(デュラム小麦)

	2021年7月			2020年8月～2021年7月		
	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)
1	アルジェリア	22.7	51.3	イタリア	149.0	24.6
2	米国	6.6	14.8	アルジェリア	118.8	19.6
3	モロッコ	3.8	8.5	モロッコ	110.5	18.2
4	トルコ	3.1	7.0	チュニジア	33.8	5.6
5	イタリア	2.4	5.5	ベルギー	30.4	5.0
6	その他	5.7	12.9	その他	163.3	27.0
計		44.2	100.0	計	605.8	100.0

注1: Canadian Grain Commissionが認可したエレベーターから輸出された小麦(Licensed)のみのデータ。

注2 普通小麦の品種はNO.1-3 Canada Western Red Spring No.1 Canada Western Red Winter

No.2 Canada Eastern Red Spring No.2 Canada Eastern Oter.デュラムはCanada Western Amber Durum Others

資料: Canadian Grain Commission「Export of Canadian Grain and Wheat Flour」をもとに作成。

< 豪州 > 生産量は史上第3位の豊作

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、収穫面積が減少するものの、単収が上昇することから、前月予測から1.5百万トン上方修正され、31.5百万トンと前年度に比べ4.5%減少するものの、史上第3位の豊作となる見込み。

豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Australian Crop Report(2021.9.7)」によれば、2021/22年度の生産量は、史上最高の前年度に比べ2%減少も、5年平均(23.6百万トン)を上回る32.6百万トン。作付面積が1%増加したものの、単収が3%減少した。

主要生産州別では、西オーストラリア州(WA州)では、単収が史上最高の2.35トン/ヘクタール、作付面積が前年度に比べ3%増加して4.9百万ヘクタールと10年平均を5%上回り、生産量は前年度に比べ21%増加し11.5百万トンとなる見込み。ニューサウスウェールズ州(NSW州)では、単収と作付面積の減少から、生産量は史上最高の前年度を15%下回り11.1百万トンとなる見込み。単収は、3.0トン/ヘクタールに低下するものの、10年平均を46%上回り、作付面積は菜種等へのシフトから、前年度に比べ3%減少の3.7百万ヘクタールとなるものの、10年平均を19%上回っている。

豪州では、作付時から、豊富な降雨量で生育は順調に進んだが、6月、7月は、殆どの生産地で平均から平均を上回る降雨に恵まれ、土壌水分が十分となり、生長が促された。8月は、ニューサウスウェールズ州(NSW州)の一部を除き、降雨量の減少と暖かな天候から土壌水分が低下した。

【貿易情報・その他】ABARESによれば、2021/22年度の輸出量予測は23.0百万トンと、高輸出量となった前年度を3%下回るものの、10年平均を37%上回る見込み。カナダ、米国の高タンパク小麦の減産のため、同国等と競合する豪州産は価格競争力が上昇し需要を伸ばすと見られている。豪州統計局によれば、2021年7月の輸出量は1.9百万トンと5月の2.8万トンを下回った。輸出先国は、インドネシア(34.4%)、中国(13.5%)、ベトナム(7.7%)の順。USDAによれば、ロシアの輸出税賦課や小麦価格の高騰等から、小麦輸入が増加しているバングラデシュ向け豪州産の輸出が増加すると見られている。

小麦－豪州 (冬小麦を主に栽培)

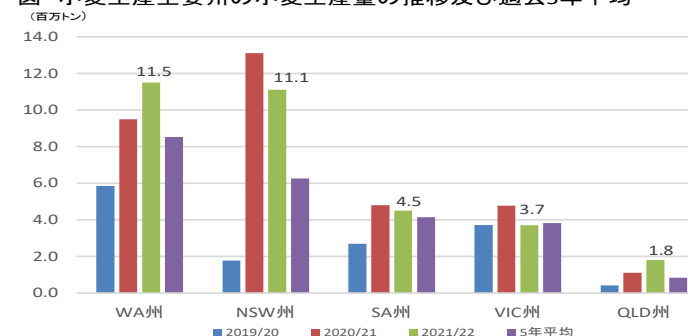
(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	14.5	33.0	31.5	(30.1)	1.5	▲ 4.5
消費量	8.0	8.5	8.2	(8.7)	0.2	▲ 3.5
うち飼料用	4.5	5.0	4.7	(5.0)	0.2	▲ 6.0
輸 出 量	9.1	23.0	23.0	(21.7)	1.0	-
輸 入 量	0.9	0.2	0.2	(0.4)	-	-
期末在庫量	2.7	4.4	4.9	(4.5)	0.3	11.4
期末在庫率	15.6%	13.9%	15.6%	(14.9%)	0.4	1.7
(参考)						
収穫面積(百万ha)※	9.86	13.00	13.10	(13.1)	▲ 0.10	0.8
単収(t/ha)	1.47	2.54	2.40	(2.30)	0.13	▲ 5.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 September 2021)

IGC 「Grain Market Report」(26 August 2021)

図 小麦生産主要州の小麦生産量の推移及び過去5年平均



資料：豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Crop Report」(2021.9.7)をもとに農林水産省で作成

表 豪州の小麦輸出先国別輸出量

(万トン)

2021年7月			2021年1月～7月		
国名	輸出量	シェア(%)	国名	累積輸出量	シェア(%)
インドネシア	67.2	34.4	インドネシア	392.8	23.1
中国	26.4	13.5	ベトナム	206.8	12.1
ベトナム	15.0	7.7	フィリピン	126.1	7.4
フィリピン	14.6	7.5	中国	109.4	6.4
イエメン	10.8	5.5	タイ	85.7	5.0
その他	61.5	31.5	その他	782.0	45.9
合計	195.5	100.0	合計	1,702.8	100.0

資料：豪州統計局のデータをもとに農林水産省で加工

< EU > フランスで収穫はほぼ終了。普通小麦の品質は良好。

【生育・生産状況】EU 委員会「EU Cereals Production Area and Yield」(2021.8.26)によれば、2021/22 年度の EU27 ヶ国の生産量は、前月予測から 0.3 百万トン下方修正され、136.2 百万トン。農業市場情報システム (AMIS)「Market Database Supply and Demand Overview」(2021.9.3)によれば、英国の同年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 14.9 百万トン。EU27 ヶ国と英国の合計生産量は 151.6 百万トンの見込み。

EU 委員会の品種別の生産量は、普通小麦が前月に比べ 0.5 百万トン下方修正され、128.2 百万トンと前年度を 8.5%上回る見込み。国別には、ドイツ、ラトビア等で下方修正されたものの、フランス等で上方修正された。

一方、デュラム小麦は、前月に比べ 0.3 百万トン上方修正され 8.0 百万トンと同 10.7%上回る見込み。国別にはイタリア、フランス等で上方修正された。カナダ、米国でパスタ原料であるデュラム小麦は減産の一方で、新型コロナウイルスによる巣ごもり需要でパスタ需要が増加した。そのため、パスタ原料のデュラム小麦を輸入しているパスタ主要生産国のイタリア等では、デュラム小麦の需給がひっ迫している。

「FranceAgriMer」(2021.8.13)によれば、収穫は、8 月下旬にほぼ終了した。収穫された普通小麦のうち、検査対象となった平均タンパク質含有量は 11.9%である。また、英国農業園芸開発公社(AHDB)(2021.9.10)によれば、9 月上旬に収穫進捗率は 90%に達し、5 年平均を僅かに上回った。

なお、USDA によれば、フランスで 8 月中旬以降乾燥状態が続き、イタリアで夏の降雨量が平年の半分以下となる等、2022/23 年度の冬作物の作付に向け土壌水分不足が懸念されている。一方、ドイツでは 8 月下旬に降雨があり乾燥状態は解消に向かった。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度(2020 年 7 月～2021 年 6 月)の輸出量は、前月予測からわずかに上方修正され 35.7 百万トン。EU 委員会によれば、2020/21 年度の輸出量は、普通小麦が前年度同期を 28.0%下回る 25.8 百万トンで、デュラム小麦が同 42.6%下回る 0.7 百万トンであった。

小麦－EU (冬小麦を主に栽培)

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	154.3	135.6	154.0 (152.2)	0.4	13.6	
消費量	122.6	117.9	124.2 (124.4)	-	5.3	
うち飼料用	52.9	48.1	53.7 (51.4)	-	11.7	
輸 出 量	41.4	30.1	35.7 (35.0)	0.0	18.7	
輸 入 量	7.3	8.6	7.4 (6.8)	-	▲ 13.9	
期末在庫量	15.3	11.5	13.0 (12.1)	1.4	13.0	
期末在庫率	9.3%	7.8%	8.1% (7.6%)	▲ 0.1	0.4	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	26.16	24.47	25.68 (25.34)	-	4.9	
単収(t/ha)	5.90	5.54	6.00 (6.01)	0.33	8.2	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 September 2021)
IGC 「Grain Market Report」(26 August 2021)

表内及び () 内のデータは EU27 国+英国のデータ

表 EU の普通小麦、デュラム小麦の輸出先国及び輸出量

(普通小麦)

	2021年6月			2020年7月-2021年6月			2019年7月-2020年6月		
	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
1	アルジェリア	27.07	29.6%	アルジェリア	589.98	22.8%	アルジェリア	607.13	16.9%
2	イラン	12.93	14.2%	ナイジェリア	229.21	8.9%	サウジアラビア	335.64	9.4%
3	ナイジェリア	9.38	10.3%	モロッコ	227.32	8.8%	モロッコ	263.20	7.3%
4	タイ	6.19	6.8%	サウジアラビア	183.98	7.1%	エジプト	229.45	6.4%
5	アンゴラ	3.71	4.1%	中国	177.39	6.9%	中国	222.00	6.2%
6	キューバ	3.38	3.7%	エジプト	107.67	4.2%	ナイジェリア	152.33	4.2%
	その他	28.63	31.4%	その他	1,068.00	41.3%	その他	1,779.79	49.6%
	総計	91.29	100%	総計	2,583.54	100%	総計	3,589.54	100%

(デュラム小麦)

	2021年6月			2020年7月-2021年6月			2019年7月-2020年6月		
	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
1	トルコ	1.32	23.8%	チュニジア	16.69	23.7%	チュニジア	38.60	31.4%
2	コートジボワール	0.81	14.6%	コートジボワール	9.77	13.9%	トルコ	20.82	16.9%
3	チュニジア	0.66	12.0%	トルコ	8.41	11.9%	モロッコ	11.92	9.7%
4	キューバ	0.42	7.5%	サウジアラビア	4.40	6.2%	コートジボワール	9.95	8.1%
5	マリ	0.40	7.2%	アルジェリア	4.11	5.8%	モリタニア	4.72	3.8%
6	スイス	0.33	6.0%	マリ	4.04	5.7%	マリ	4.61	3.7%
	その他	1.60	28.9%	その他	23.14	32.8%	その他	32.36	26.3%
	総計	5.54	100%	総計	70.57	100%	総計	122.99	100%

資料：EC(欧州委員会)、Cereals exports and imports(2021.8.22)

< 中国 > 天候に恵まれ生産量は史上最高の見通し

【生育・生産状況】中国糧油情報センター(2021.9.5)によれば、2021/22 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 2.1%増の 137.1 百万トンと史上最高の見込み。内訳は、冬小麦が前年度比 1.9%増の 129.3 百万トン、春小麦は同 4.9%増の 7.8 百万トン。中国中央气象台(2021.9.3)によれば、冬小麦はほぼ収穫が終了。春小麦も青海省、新疆自治区等の一部を除き収穫は終了した。

【貿易情報・その他】中国糧油情報センターによれば、2021/22 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 1.2%減少の 145.5 百万トン(飼料用は同 5.3%減少の 36.0 百万トン)の見込み。一方、USDA によれば、同年度の消費量は、前月に比べ、飼料用途が 1.0 百万トン上方修正(36.0 百万トン)され、前年度を 0.7%下回る 149.0 百万トンとなる見込み。なお、小麦ととうもろこしの価格差は、2021 年 5 月より減少しているものの、小麦は飼料原料としては価格競争力がある。

国家糧食和物資儲備局(2021.9.8)によれば、2021 年度の主産地の冬小麦累計買付数量は 52.6 百万トンである(9 月 5 日現在)。

中国糧油情報センターによれば、2021/22 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 23.3%減少の 8.0 百万トンの見込み。中国海関統計によれば、2021 年 1 月から 7 月の小麦輸入量は前年同時期(4.1 百万トン)の 51.2%増の 6.2 百万トンとなった。同期間の輸入先国は、カナダ(32.0%)、米国(28.9%)、豪州(24.4%)の順で、この 3 カ国で全体の 85.3%を占めている。なお、輸入先国は、4 月から米国が増加傾向、一方、前年度 1 位であったフランスは、5 月から 7 月の間は実績がない。

中国農産品供需形勢分析月報(7 月)によれば、新穀小麦品質の良好さに下支えされ上昇したものの、一部主産地で洪水被害により保管が難しくなり、国内流通業者の小麦販売意欲が高まったことや、とうもろこし価格の下落で小麦の飼料用消費が抑えられたことから、7 月の国内小麦価格は安定した。国内小麦粉消費はオフシーズンに入っているため小麦粉加工企業の稼働率は低く、今後の小麦価格は安定する見通し。

小麦—中国(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	133.6	134.3	136.9 (136.0)	0.9	2.0	
消費量	126.0	150.0	149.0 (145.1)	1.0	▲ 0.7	
うち飼料用	19.0	40.0	36.0 (32.0)	1.0	▲ 10.0	
輸 出 量	1.1	0.8	1.0 (1.3)	-	31.6	
輸 入 量	5.4	10.6	10.0 (9.6)	-	▲ 5.8	
期末在庫量	150.0	144.1	141.0 (127.4)	▲ 0.6	▲ 2.2	
期末在庫率	118.1%	95.6%	94.0% (87.0%)	▲ 1.0	▲ 1.6	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	23.73	23.38	23.80 (23.8)	0.80	1.8	
単収(t/ha)	5.63	5.74	5.75 (5.71)	▲ 0.16	0.2	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 September 2021)
IGC 「Grain Market Report」(26 August 2021)

図 中国の飼料用等の消費量と飼料用等を除く消費量の推移

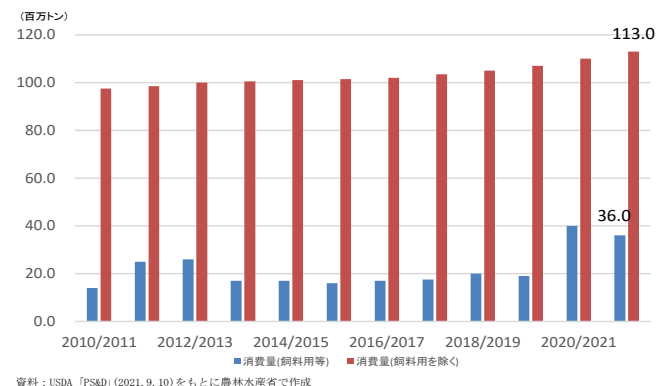


表 中国の小麦輸入先国(2021年6月、2021年1月～2021年6月、2020年1月～2020年12月)

	2021年7月			2021年1月～2021年7月			2020年1月～2020年12月		
	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)
1	米国	33.1	37.5	カナダ	199.3	32.0	フランス	238.3	29.2
2	カナダ	30.9	35.0	米国	179.6	28.9	カナダ	229.7	28.2
3	豪州	21.5	24.4	豪州	152.0	24.4	米国	178.4	21.9
4	カザフスタン	2.6	2.9	フランス	65.4	10.5	豪州	109.0	13.4
5	ロシア	0.2	0.2	カザフスタン	15.6	2.5	リトアニア	33.3	4.1
6	フランス	0.0	0.0	リトアニア	6.6	1.1	カザフスタン	19.2	2.4
7	リトアニア	0.0	0.0	ロシア	4.0	0.6	ロシア	7.2	0.9
計		88.2	100.0		622.6	100.0		815.2	100.0

出典: 中国海関統計をもとに農林水産省で作成

< ロシア > 生産量は前年度を 15.1%下回る 72.5 百万トン

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22 年度の実産量(クリミア分は含まない)は、前月予測からの変更はなく、前年度に比べ 15.1%減少の 72.5 百万トンの見込み。

品種別の生産量の内訳は、冬小麦は前月予測からの変更はなく 50.5 百万トン、春小麦も前月予測からの変更はなく 22.0 百万トンの見込み。

ロシア気象センターによれば、8月は、ロシア・ヨーロッパ部(※)では一部の地域で降雨が多く、収穫作業が度々中断された。沿ボルガ連邦管区やウラル連邦管区では全体的に降雨量が少なく、収穫作業は進展したものの、2022/23 年度の冬作物の作付に向けて土壌水分は不十分な状態。シベリア地域では十分な降雨があり、収穫作業が滞ることもあったが、十分な土壌水分となった。

地域別の収穫状況は、9月10日時点で、ロシア・ヨーロッパ部はほぼ終了、ウラル連邦管区、シベリア地域で収穫進捗率が 50%から 60%、極東連邦管区では約 50%である。ロシア農業省の速報値によれば、9月15日現在、作付面積 28.71 百万ヘクタールのうち、24.50 百万ヘクタールで収穫が終了し、収穫量は 70.8 百万トンであった。

ロシア穀物品質評価センターによれば、本年度の小麦の品質は高水準となった。9月6日までに収穫された 60.4 百万トンの 43.4%にあたる 26.2 百万トンを検査したところ、1及び2等は 0.11%、3等は 43.9%、4等は 42.8%、飼料用の 5等は 13.2%と、1～4等の比率は前年同日時点の 71.7%を大きく上回る 86.8%となった。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、35.0 百万トンの見込み。ロシア輸出税関によれば、2021 年7月の輸出量は前年度同時期(2.3 百万トン)を 21%下回る 1.8 百万トン。

現地輸送会社及び情報会社によれば、低水準だった7月に比べ8月の輸出量(速報値)は 5.1 百万トンに増加した。これは、EU の収穫量が大雨で減少する見込みから、同地域からの輸入も多いトルコ、サウジアラビア、イランの需要が伸びたことや、輸出関税が上昇する前の駆け込み輸出が増加したためである。

小麦ーロシア(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培) (単位:百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	73.6	85.4	72.5 (75.0)	-	▲ 15.1
消費量	40.0	42.5	40.0 (41.7)	-	▲ 5.9
うち飼料用	17.0	19.0	17.0 (17.3)	-	▲ 10.5
輸 出 量	34.5	38.5	35.0 (34.1)	-	▲ 9.1
輸 入 量	0.3	0.4	0.5 (0.3)	-	25.0
期末在庫量	7.2	12.0	10.0 (12.3)	0.1	▲ 16.7
期末在庫率	9.7%	14.8%	13.3% (16.2%)	-	▲ 1.5

(参考)

収穫面積(百万ha)	27.31	28.68	28.00 (28.0)	-	▲ 2.4
単収(t/ha)	2.70	2.98	2.59 (2.68)	-	▲ 13.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 September 2021)

IGC 「Grain Market Report」(26 August 2021)

図 ロシアの最近3カ年の月別小麦輸出の推移

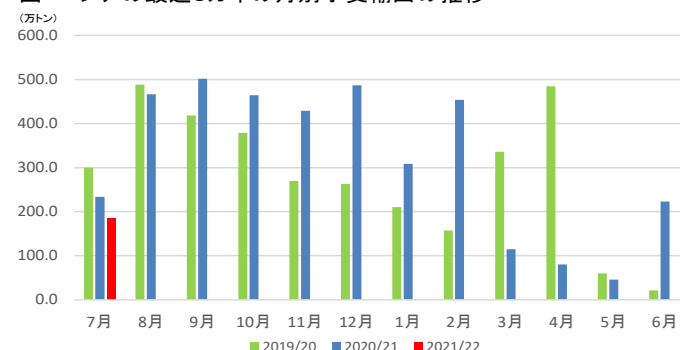


表 ロシアの小麦輸出先国(2021年7月、2020年7月～2021年6月、2019年7月～2020年6月)

	2021年7月			2020年7月～2021年6月			2019年7月～2020年6月		
	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)
1	トルコ	45.0	24.4	エジプト	813.5	21.4	トルコ	794.2	23.6
2	エジプト	33.8	18.3	トルコ	698.7	18.4	エジプト	623.1	18.5
3	非公表	31.0	16.8	非公表	205.4	5.4	バングラデシュ	229.8	6.8
4	タンザニア	8.4	4.5	バングラデシュ	182.1	4.8	アゼルバイジャン	131.5	3.9
5	ナイジェリア	8.1	4.4	パキスタン	157.0	4.1	スーダン	114.3	3.4
6	その他	58.1	31.5	その他	1,747.3	45.9	その他	1,469.7	43.7
計		184.3	100.0		3,804.0	100.0		3,362.6	100.0

資料: ロシア税関統計をもとに農林水産省で作成 (注)2020/21年度は、2020年7月から2021年6月

※ロシア・ヨーロッパ部: 北西、中央、沿ボルガ、南、北カフカス連邦管区

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2021/22 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・ロシア等で下方修正も、米国、中国、アルゼンチン等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

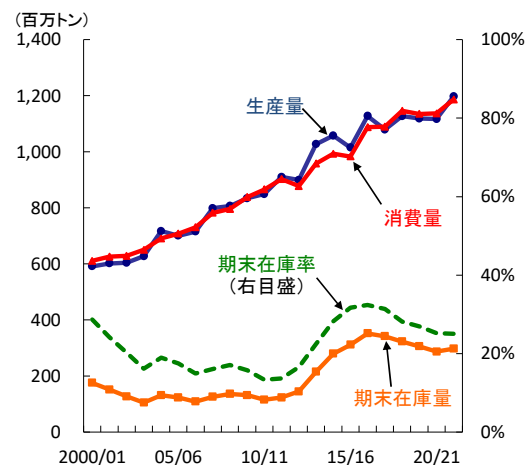
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・米国、カナダ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・アルゼンチン、米国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」（2021.9.10）をもとに農林水産省にて作成

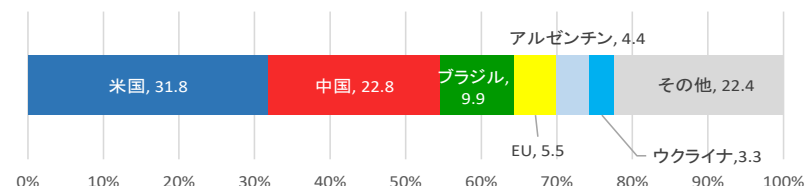
◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

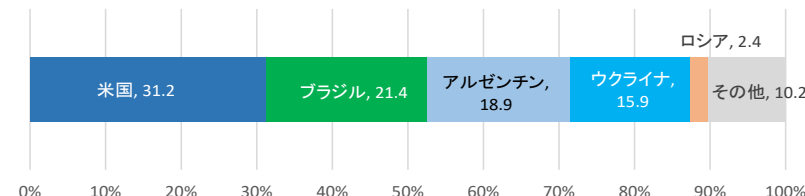
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	1,118.7	1,117.1	1,197.8	11.7	7.2
消 費 量	1,135.2	1,136.7	1,186.6	4.4	4.4
うち飼料用	715.9	725.4	749.2	5.4	3.3
輸 出 量	172.4	179.6	201.3	3.4	12.1
輸 入 量	167.6	185.1	186.0	1.3	0.5
期末在庫量	306.1	286.5	297.6	13.0	3.9
期末在庫率	27.0%	25.2%	25.1%	1.0	▲ 0.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（10 September 2021）

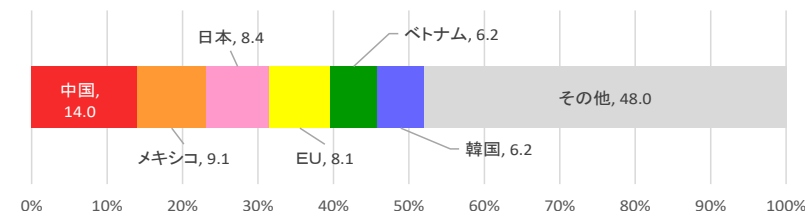
○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,197.8百万トン) (単位：%)



○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの輸出量(201.3百万トン)



○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの輸入量(186.0百万トン)



（２）国別のとうもろこしの需給動向

＜ 米国 ＞ 収穫面積・単収上方修正で増産、輸出減の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、収穫面積及びミネソタ州、アイオワ州等の単収がともに前月予測から上方修正されたことから、前月予測から6.3百万トン上方修正され、前年度より5.7%増の380.9百万トンと2016/17年度に次ぐ史上第2位の見込み。「Crop Progress」(2021.9.20)によれば、主要18州におけるデント進捗率は、93%と前年度同期(94%)より遅れているものの、過去5年平均(89%)より進んでいる。成熟進捗率は57%と前年度同期(56%)及び過去5年平均(47%)より進んでいる。収穫進捗率は10%と前年度同期(8%)及び過去5年平均(9%)より進んでいる。作柄評価は、生育期のコーンベルト北西部の高温乾燥の影響により、良からやや良が59%と前年度同期(61%)を下回っている。

【需要動向】USDAによれば、2021/22年度の飼料用消費量は、生産量の上方修正及びとうもろこし価格の低下見込みにより前月予測から1.9百万トン上方修正されたものの、前年度より減少する見込み。一方、国内のワクチン接種の進展に伴い、自動車を運転する機会が増加することによる燃料用エタノールの需要増からエタノール向け需要は前年度より増加することから、消費量全体では前年度より1.1%増の313.1百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、生産量の上方修正に伴い、前月予測から1.9百万トン上方修正されたものの、他の輸出国との競争の増加等により、前年度より9.8%減の62.9百万トンの見込み。

USDAによれば、輸出検証高(2021年1月7日～9月2日)は、50.2百万トンであり、内訳は中国(15.9百万トン)、メキシコ(10.3百万トン)、日本(9.0百万トン)、韓国(3.1百万トン)の順である。なお、8月29日に米国ガルフに上陸したハリケーン・アイダにより一部の穀物輸出施設が被害を受け、一時停電となったため、輸出が遅延している。

USDAによれば、2021/22年度の期末在庫量は、需要量より供給量の上方修正が大きかったため、前月予測から4.2百万トン上方修正され、前年度より18.6%増の35.8百万トンの見込み。なお、期末在庫率は9.5%で依然として低水準の見込み。

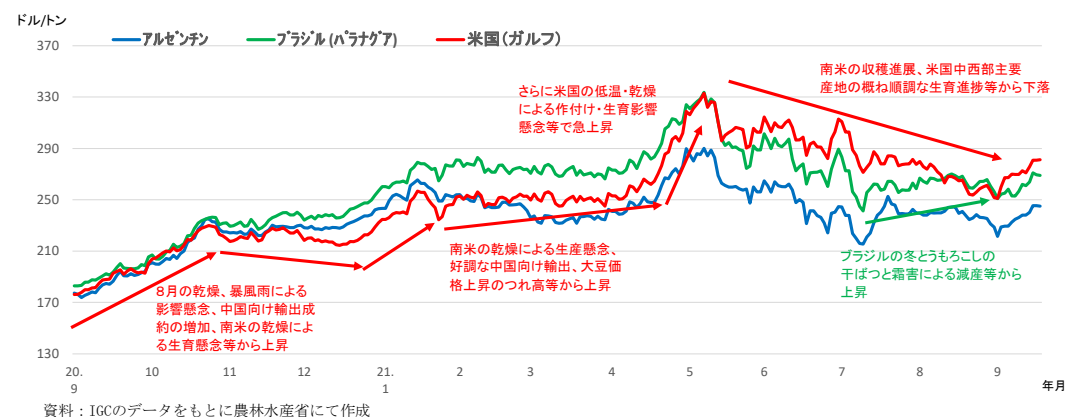
とうもろこしー米国

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	346.0	360.3	380.9	6.3	5.7
消費量	309.6	309.8	313.1	1.9	1.1
うち飼料用	149.9	145.4	144.8	1.9	▲ 0.4
エタノール用等	123.4	127.9	132.1	-	3.3
輸出量	45.1	69.7	62.9	1.9	▲ 9.8
輸入量	1.1	0.6	0.6	-	-
期末在庫量	48.8	30.2	35.8	4.2	18.6
期末在庫率	13.7%	7.9%	9.5%	1.0	1.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	32.92	33.37	34.43	0.24	3.2
単収(t/ha)	10.51	10.79	11.06	0.10	2.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 September 2021)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格（FOB）の推移



＜ ブラジル ＞ 2020/21 年度冬とうもろこし生産見直し下方修正

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加により、前年度より37.2%増の118.0百万トンとなり、史上最高の見込み。なお、2020/21年度の実生産量は、ブラジル食料供給公社（CONAB）報告を受けて、前月予測から1.0百万トン下方修正され、86.0百万トンの見込み。

CONAB月例報告（2021.9.9）によれば、2020/21年度の夏とうもろこしの生産量は、乾燥による作付け遅延と生育期の乾燥の影響により、前年度比3.7%減の24.7百万トンの見込み。一方、大豆収穫後に作付けされ、収穫中の冬とうもろこしの生産量は、4月～5月の南部の主産地での長引く乾燥天候に加え、6月下旬から7月下旬にかけてのパラナ州等中南部の州の断続的な霜害の影響により、前月予測から0.7百万トン下方修正され、前年度比20.7%減の61.0百万トンの見込み。合計では前年度比16.4%減の85.7百万トンの見込み。（P.21 大豆－ブラジルのクロップカレンダー参照）。

南部のパラナ州では9月20日現在で2020/21年度の冬とうもろこしの収穫率は98%。同州の2021/22年度の夏とうもろこしの作付進捗率は45%となっている。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の増加に伴い、前年度より7.4%増の73.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加により前年度より95.5%増の43.0百万トンの見込み。なお、2020/21年度の輸出量は、生産量が1.0百万トン下方修正されたことに伴い、前月予測から1.0百万トン下方修正され、22.0百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2021年1～8月の輸出量は10.0百万トンで、前年同期（13.5百万トン）と比べ25.9%減となっている。内訳は、1位がイラン1.5百万トン、2位がエジプト1.2百万トン、3位がスペイン1.1百万トンとなっている。

とうもろこし－ブラジル

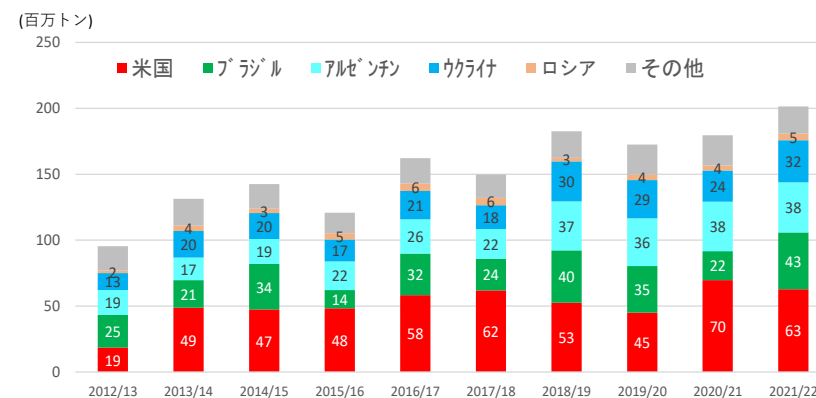
（大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが3/4を占め、夏とうもろこしは1/4）

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	102.0	86.0	118.0 (117.4)	-	37.2
消 費 量	68.5	68.0	73.0 (76.2)	-	7.4
うち飼料用	58.5	58.0	62.0 (55.7)	-	6.9
輸 出 量	35.2	22.0	43.0 (40.0)	-	95.5
輸 入 量	1.7	3.5	1.7 (0.5)	-	▲ 51.4
期末在庫量	5.2	4.7	8.4 (5.8)	-	78.2
期末在庫率	5.0%	5.3%	7.3% (5.0%)	-	2.0

（参考）
 収穫面積(百万ha) 18.50 19.83 20.80 (20.60)
 単収(t/ha) 5.51 4.34 5.67 (5.70)
 資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
 「World Agricultural Production」(10 September 2021)
 IGC 「Grain Market Report」(26 August 2021)

図：世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移



資料：USDA 「PS&D」 (2021.9.10) のデータをもとに農林水産省にて作成

＜ アルゼンチン ＞ 増産見通しも輸出税継続

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、大豆より輸出税率が低いなど農家の収益性が高いことから収穫面積の上方修正により前月予測から2.0百万トン上方修正され、前年度より6.0%増の53.0百万トンと史上最高の見込み。なお、2020/21年度の生産量は、前月予測から1.5百万トン上方修正され、50.0百万トンの見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所週報（2021.9.23）によれば、低温にも関わらず、作付けが加速し、作付進捗率は8.5%で、前年度同期より2.5ポイント遅れている。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より3.6%増の14.5百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、生産量の上方修正に伴い前月予測から2.0百万トン上方修正され、前年度より1.3%増の38.0百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2021年1～7月の輸出量は22.4百万トンで、前年同期（24.4百万トン）より7.9%減。内訳は、1位がベトナム3.7百万トン、2位がエジプト2.4百万トン、3位が韓国2.0百万トン。7月26日に180日間の渇水の緊急事態宣言が発令されたパラナ川の水位低下に伴うアルゼンチンの穀物等の輸出への影響に注視が必要である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019年12月14日、輸出税を約7%から12%へ引き上げ、その後継続している。

とうもろこしーアルゼンチン

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	51.0	50.0	53.0 (63.3)	2.0		6.0
消 費 量	13.5	14.0	14.5 (22.6)	-		3.6
うち飼料用	9.5	10.0	10.5 (17.6)	-		5.0
輸 出 量	36.3	37.5	38.0 (37.0)	2.0		1.3
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-		-
期末在庫量	3.6	2.1	2.6 (9.0)	0.2		24.1
期末在庫率	7.3%	4.1%	5.0% (15.1%)	0.2		0.9
(参考)						
収穫面積(百万ha)	6.30	6.40	6.50 (8.30)	0.25		1.6
単収(t/ha)	8.10	7.81	8.15 (7.63)	▲ 0.01		4.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 September 2021)
IGC 「Grain Market Report」(26 August 2021)

< 中国 > 収穫面積増、単収上方修正で史上最高、消費量も史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、収穫面積増に加え、主産地の華北平原から東北地区にかけて生育期の降雨に恵まれたことから単収の上方修正により、前月予測から5.0百万トン上方修正され、前年度より4.7%増の273.0百万トンと史上最高の見込み。収穫作業は8月末から10月にかけて行われる。

中国糧油情報センター（2021.9.5）によれば、8月は産地の天候が温暖で適度な降雨があり、生長・成熟に有利となった。中国中央气象台（2021.9.3）によれば、9月上旬現在、東北地区の春とうもろこしはシルキング期から乳熟期、一部が成熟期に入っている。河南省等の夏とうもろこしは、シルキング期から成熟期に入っている。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の飼料用消費量は、生産量の上方修正と国内価格の低下見込みから前月予測から3.0百万トン上方修正された。一方、工業用消費量がエタノール向け消費やとうもろこし加工製品輸出の減少見通しから同量下方修正されたことから、消費量計では前月予測からの変更はなく、前年度より3.2%増の294.0百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度と同じ26.0百万トンで史上最高の見込み。

中国の貿易統計によれば、2021年1～7月の輸入量は18.2百万トンで、前年同期の4.0倍となり、前年の年間輸入量の1.6倍。内訳は、米国産11.3百万トン（62%）、ウクライナ産6.7百万トン（37%）で、前年同期はウクライナ産が92%を占めたが、米国産の輸入が大幅に増加している。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報7月号」によると、7月の国内流通価格は、農家の余剰在庫はわずかとなっているものの、大量の輸入とうもろこしの継続的な到着、販売業者の在庫処分、とうもろこし加工業者の原料在庫の充足等により、2,760元/トンと引き続き下落した。一方、7月の外国産価格は2,840元/トンと上昇し、前年3月以降で初めて国内価格を上回った。今後の中国の輸入動向に注視が必要である。

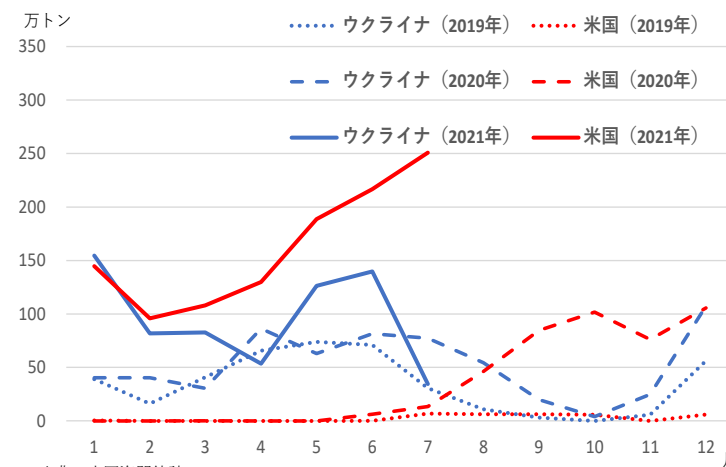
とうもろこし—中国

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	260.8	260.7	273.0 (272.8)	5.0	4.7	
消費量	278.0	285.0	294.0 (297.7)	-	3.2	
うち飼料用	193.0	203.0	214.0 (192.5)	3.0	5.4	
輸出量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	100.0	
輸入量	7.6	26.0	26.0 (16.5)	-	-	
期末在庫量	200.5	202.2	207.2 (182.4)	9.0	2.5	
期末在庫率	72.1%	70.9%	70.5% (61.2%)	3.1	▲ 0.5	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	41.28	41.26	42.00 (42.90)	-	1.8	
単収(t/ha)	6.32	6.32	6.50 (6.36)	0.12	2.8	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 September 2021)
IGC「Grain Market Report」(26 August 2021)

図：中国におけるウクライナ・米国産とうもろこしの輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分